令和７年度　研究の概要

Ｅグループ
有松中学校　小川　弘

学習を自己調整できる生徒の育成

１　研究のねらい

中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」(2021)では、2020 年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿を実現するために、「子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる。」と示されている。また、なごや学びのコンパス(2023)では、自律して学び続ける姿として、「興味・関心等に応じ、やりたいことを見付けて取り組む。学ぶペースや方法、内容などを自己選択、自己決定しながら学ぶ。学びに見通しをもち、振り返りながら学び続ける」ことが重要だと示されている。

以上のことから、私は授業を通して、学習を自己調整できる生徒を育成したいと考えた。本校の生徒は、指示された課題に対して真面目に取り組むことができるが、すぐに教師に解法を求めてしまったり、なぜ間違えたのかを考え次につなげることがでなかったりすると感じる。ジマーマン(2006)は「自己調整の段階において基本となる過程」として、「予見・遂行制御・自己省察」の３つのフェーズを挙げている。また木村(2023)は、この３つのフェーズを『見通す』『実行する』『振り返る』に置き換えて、子どもたち自身が見通しを明確にもち、自らの学習を振り返り、次の学習につなげる大切さについて述べている。そこで私は、学習を自己調整できる生徒を「自ら設定した課題に工夫して取り組み、正しく評価できる生徒」と考え実践を行うこととした。

２　研究の内容

(1)　研究の手立て

各単元の終わりに、自由進度学習を行う。分野や難易度別で分けた学習プリントをロイロノートで配信し、生徒の理解度や興味に応じて問題に取り組ませる。さらに、振り返りシートを記入させることで、自らの学びを評価し、次の学習につなげられるようにする。

【手立て①】課題に取り組ませる工夫

生徒が工夫して課題に取り組むことができるように、授業一時間の前半を「もくもくタイム（個別)」、後半を「わいわいタイム（協働)」として設定する。前半の「もくもくタイム」は、解説プリントや解説動画を配信し、生徒が自分の理解度や興味に応じて個々に問題に取り組み、学びを深められるようにする。後半の「わいわいタイム」は、仲間に質問したり、同じ問題を解いている仲間と解法を共有したりして、仲間と協働して学びを深められるようにする。

【手立て②】振り返りの視点を与える工夫

既習した単元の内容を振り返らせ、自由進度学習を通してどのような力を身に付けたいか、目標を設定させる。目標を達成するために必要な学習を考えさせ、見通しをもって学習プリントに取り組むことができるようにする。その後、解決した学習プリントを振り返らせ、「〇〇は、△△で間違えやすいので、□□するように注意する。」や「〇〇は、△△と考えると解くことが

できるので、□□を意識する。」と、定型文を設定し視点を与え、振り返りシートに記述させることで、より価値のある振り返りができるようにする。このように、自分の学習を評価させることで、次の学習につなげられるようにする。

(2)　検証方法

【検証①】

解説動画や解説プリントを取り入れた「もくもくタイム」や、仲間と解法などを共有する「わいわいタイム」を設定したことで、工夫して課題に取り組むことができたか、生徒への事後アンケート結果から検証する。

【検証②】

定型文を設定し視点を与え、振り返りシートに記述させることで、より価値のある振り返りを行い、次の学習につなげることができたか、振り返りシートの記述内容から検証する

【参考文献】

中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」(2021)
名古屋市教育委員会「なごや学びのコンパス」(2023)
バリー・Ｊ・ジマーマン、ディル・Ｈ・シャンク編著「自己調整学習の理論」(2006)
木村明憲著「自己調整学習－主体的な学習者を育む方法と実践」(2023)